

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ④観光分野(1/6)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京都市地域活性化総合特区 (京都市等)	正	4.2	4.7 <u>進捗度</u> ・再来訪意向及び紹介意向 95% ・年間観光消費総額 136% ・年間外国人宿泊客数 187% ・コンベンション開催件数の世界順位 102%	3.5 <u>規制の特例等</u> ・特定伝統料理海外普及事業 <u>財政支援等</u> ・世界の人々が日本文化の神髄と美しい町並みを求めて集う国際観光拠点の形成 <u>地域独自の取組</u> ・京町家まちづくりファンド	4.3	<p>・今までの努力が実られたものと高く評価したい。特に「地域独自の取り組み」は高く評価されて良い。「観光振興計画」策定とその着実な実施、また宿泊施設不足の問題解決に向けた「方針」策定も好ましく、観光交流都市のリーダーである京都には、常に高い視座での観光戦略で先導を期待する。</p> <p>・課題となっている公共交通対策や手ぶら観光促進などの受入環境整備を丁寧に行うことが重要である。</p> <p>・「特定伝統料理海外普及事業」について、在留期間の延長が実ったことは評価するが、直接効果が見えづらく、実績数値としてもやはり寂しい。例えばメディアに取り上げられた回数や他国での日本料理フェアの開催回数など、具体的な数値で表せるものがあれば表示が望ましい。</p> <p>・以前から繰り返し指摘しているが、評価指標の設定自体に問題がある。せめて、サブ指標を加えるなどして、本事業の直接的な成果を示した上で、設定した指標の数値を解釈してもらいたい。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。